

コンテナ栽培による「プチシリーズ」の効率的な球根生産技術の開発

球根輸送用コンテナを栽培槽とした球根増殖栽培により、切り花用球根が約75,500球/10a生産できる。本技術は、水稻の育苗ハウス等土耕栽培が困難な施設でも活用できる。

成果の内容

1 用土の種類

増殖倍率および球周8cm以上の球数は用土の種類で差が無い。ただし、灌水管理および掘り上げ作業時間を考慮すると、コンテナ栽培に使用する用土は配合土が適する（表1）。

2 栽植密度

コンテナあたりのりん片定植重量は、増殖倍率および球周8cm以上の球数共に優れる90gが適する（表2）。

3 経営試算

(1) コンテナあたりの収量を30.2球、コンテナの設置数を2,500個/10aとすると、コンテナ栽培の収量は、75,500球/10aと試算され、慣行収量の45,000球/10aと比較して68%増加する。

(2) コンテナ栽培における経費は、労働費を含めて約1,353千円/10aと試算される（表3）。切り花用球根は75,500球/10a生産できるため、1球あたりの経費は17.9円となり、購入するよりも安価に生産することができる（切り花生産者購入価格18~22円/球）。

成果の活用面・利用上の留意事項

1 本成果は「プチソレイユ」での試験結果を基に取りまとめている。

2 本栽培方法は施設栽培で行う。なお、水稻の育苗ハウス等土耕栽培が困難な施設でも実施できる。

3 収穫球根のうち切り花栽培に使用できない小球を次作の種球として用いれば、次年度の種苗費を低減させることができる。

4 コンテナ栽培の実施に際しては、「コンテナを活用した球根増殖栽培マニュアル」を参照する。



写真 ユリ球根輸送用コンテナを活用した球根増殖栽培

具体的なデータ

表1 用土の種類が球根収量および球根掘り上げ作業時間に及ぼす影響

用土の種類	定植りん片 ^z		球根収穫 ^y		球根掘り上げ 作業時間 (分/コンテナ・人)
	重量 (g)	収穫重量 (g)	増殖倍率 ^x (倍)	球周8cm以上 (球)	
ボラ土	46.9	285.0	6.1 a ^w	12.6a	4.0
ピートモス (pH調整済)	46.8	321.5	6.9 a	17.0a	8.8
配合土 ^v	46.7	345.7	7.4 a	13.6a	4.4

^z平成25年5月29日に収穫した「プチソレイユ」の球根からりん片を剥ぎ、子球形成処理、冷蔵処理を行った後、平成26年1月9日に定植した

^y収穫日：平成26年10月3日

^x収穫重量/定植りん片重量

^w調査項目ごとに同一英字間には、tukeyの多重検定により5%水準で有意差が無い(n=5)

^v配合土は、バーク堆肥：赤玉土：赤土：もみ殻堆肥=4：3：1：1で混合して作成した。

表2 コンテナ当たりに定植するりん片量が球根収量に及ぼす影響

定植りん片 ^z (g)	収穫球根 ^w		
	増殖倍率 ^x (倍)	球周8cm以上 球数	球周8cm以上 割合(%)
180	3.6b ^v	28.2a	24.8
90	6.1a	30.2a	42.1
45	7.4a	13.6b	31.5

^z平成25年5月29日に収穫した「プチソレイユ」の球根からりん片を剥ぎ、子球形成処理、冷蔵処理を行った後、平成26年1月9日に培土に配合土を用いて定植した。

^x収穫重量/定植りん片重量

^w収穫日：平成26年10月3日

^v調査項目ごとに同一英字間には、tukeyの多重検定により5%水準で有意差が無い(n=5)

表3 コンテナ栽培における球根増殖経費試算(10aあたり)

項目	経費(円)	備考
球根輸送用コンテナ	70,000	耐用年数5年
用土	168,680	配合土、5年使用すると仮定
種苗費	225,000	りん片1円/g、90g/コンテナ×2500コンテナ
肥料農薬費	79,197	
労働費	460,500	労働時間614時間(h/10a)×750(円/h)
減価償却費	251,129	ビニルハウス、自動灌水装置等
その他経費	98,013	防根シート、諸経費等
小計	1,352,519	

関連文献等

研究年度	平成23～27年度
研究課題名	500万本生産を実現する小輪系ユリ「プチシリーズ」の効率的な栽培技術の開発
担 当	農業技術部花き振興センター 尾関仁志・福光優子・住居丈嗣(現農業担い手支援部)・篠原裕尚(現就農・技術支援室)